

第一線の戦斗は率格的に奪つて来た
独立歩兵第十二大隊に追尾して潮の如く
殺到して来た米軍は我が主陣地帯の第一
線歩兵第六十三旅団と直ちに激斗を始り
た 宜野湾街道の東側が独立歩兵第十四
大隊、西側が令第十三大隊の陣地である
前者は前進陣地を歩一步敵手に委しては
居るが窺によく復張つている 後者は陣
地突出部の九五高地を中敷園に亘り昼は
敵、夜は我が軍と争奪戦を繰り返し伝統

を誇る日本軍の實力を遺憾なく發揮して
いる。初めに蘇斗に考加し、其精練なる砲
兵の威力も亦絶大で甚の射弾の集中する
所米軍の攻壘は必ずしも頓挫する前線よ
りの報告は皆威勢の良いたるばかりで金
軍の志氣は變る旺盛だ。四月六日夜米軍
は初めて中城湾内に侵入し、約一中隊の兵
力を以て津堅島を攻撃して、事在此同島守
備隊兵力僅か百名内外であつたが、十數名
の損害を以て之を一蹴した。之は敵の

威力は奮然とあり、
 越え、十日早曉敵は舟艇約八十隻を以て
 雨島同島に東襲し、天津堅島守備隊は善戦
 し、我が象寡敵せず、冷茅に圧迫す。此
 くの如く、軍司令官同夜軍主力に合する如
 く命令せられ、敵線は突破し、帰還した
 者は守備隊長以下數十名ある
 斯く、乙鞞斗が本橋化し、戦面が拡大し、
 ある間、一応沙汰止みとあり、乙、兵攻勢論
 は容易に衰え、然るも方面軍、大車當方面

の帽従も相変らざらざる軍司會官は而
目にかけても成敗和睡を超越し何等かの
形で攻撃を實行しなすべからん境地に
立たれしまつた稍々急り氣味の考練長
は夜襲に當して再び考練を集めて研究之
水た
他の考練は全部夜襲に賛成し木村、葉丸
等は支那戦場に於ける自らの体験を基礎
に一夜にして十軒内外の敵線突破は可能
とあると主張した高級考練は次の如く

観 しい 之 夜 襲 に 反 対 し た
 古 来 の 鞏 固 史 や 列 強 陸 軍 の 鞏 固 原 則 より
 考 察 可 水 ば 此 の 夜 襲 は 非 常 に 無 理 が 有
 る 目 下 彼 我 の 鞏 固 線 は 刻 々 移 動 し 今 日
 を 以 て 明 日 の 攻 撃 目 標 と 予 定 する こと
 は 至 難 と 有 る 攻 撃 目 標 の 定 未 了 ぬ 夜
 襲 準 備 は 出 来 ない 敵 情 地 形 に 詳 しい
 第 一 線 の 部 隊 は 防 禦 が 精 一杯 之 に 夜
 襲 を 命 ず る こと は 出 来 ない か ら ど う し
 之 も 後 方 部 隊 に 担 任 せ し め 可 け 水 ば 有

らん其に於いて國難は愈々加はる地
形は宜野湾街道に東は錯雜した山地帯
に地形に未熟な部隊の夜向の行動は至
難、同街道以西は平坦南端地に敵火の
威力は夜向と雖も絶大である如くに
も小部隊毎に迂迴せんとするやり方は
一理があるが以上の條件に於て如何に
我が軍が精銳なりとするも一夜にして
十軒の敵銃隊を突破するなどは望むべ
くもなにい況んや此の攻勢は殊略持久

の根本方針を逸脱するものがある
然し数回、来の行きがかりもあり、軍司令官
官の立場も尊重しなすべからぬ非常
な意気込みで夜襲を決定せられんとす
る軍勢に能く這反對することには出
来なかつた。岩部長は今回、自ら筆を
取り、左の如き首子を設定、夜襲計画の早
急立案を命ぜられ、

一、夜間攻撃使用兵力は少くも守兵一ヶ
旅団とす

二 全線に亘り小部隊群を以て敵線深く
侵入紛戦に導き、島嶼東西の線即
ち敵砲兵陣地帯の後端を然も此、中
飛行場を制する特殊の要線に進出す
る
三 夜襲成功し状態有利なるは之を利圖
し軍主力を以て出動する
以上に基づき夜襲計画が出来所要の軍命令
令が下達之と共に命令下達の際予は尚
岳第二十二聯隊の甲法に於て当初過大

言動を爲したる記憶好し 但し前述四月
 十日二日夜襲に圍する國想録拔萃の項に記
 述せる程度の争加減は實施せり
 八九頁五行より九。頁一行迄に對する所見
 米軍陸正面の攻襲が損害甚大なるに懸々
 とし之進せぬ爲基の本土に於ける非難の
 輿論喧々轟々となり 爲に大統領が軍の
 辯護に立つに至つた事 更に我が側背に
 新上陸を行ふ案に就いて陸海軍が激しく

對立せし輩等に就いて當時の米國の新面目
に揭載せられあり又戦後米第十軍作戦
号稱は陸軍は正面攻撃、海軍は新上陸を
主張せりと認れり
九五頁も行たり一〇〇頁一行迄に對する一
部所見
五月四日 攻勢策定に際し軍司令官は予志
呼ぶに「貴官は常に軍の攻勢に反對し
来たれども今國は金精神を打込ん攻勢

の事にあたらぬばならんしと叱責せられ
たり平素寛容にして一言も部下に小言
を言はれたることなき将軍より御叱りを
受けたるは前後を通じて唯一回たり
号籟は又声談共に下る態度にて予の争
を握り、どうが心よく此の政事に同意し
てくわしと申されたり

一〇六回行より一〇七回一行迄に并する

所見

一、此の種希望の解決法は敵の採れる對抗策
（夜間）は主力を以て戦線後方の要線に
後退し我が夜間の攻勢を封止す）に阻
むれ多くは期待を裏切られたり
二、（註）二の各項は攻勢続行案者の情況
判断ならん
敵が特に後退せる夜間陣地線が若く
は其の空隙に乘じ進出し得たるに止
まる伊東大隊の成軍は全般的に
より観望し結果的に考慮し乙も鬼の

首志取りたる程強調せしむる
五月五日伊東大隊が攻勢同標棚翠高
地を奪取すとの発煙信号を爲したる
が如くとの報告あり皆吾等三十二
隊に就いて至急調査するも無疑不明
にして環隊及び伊東大隊並との同連
絡杜絶し之を確認するを得ず軍は總
予備たる混成旅団投入の好機と考え
しも第一線全般の戦況頗る非なりし

を以て伊東大隊との連絡を奨励し、
> 總予備の使用を手控えたり 同大
隊の行動は遂に攻勢中止に決する迄
不明なりき
終戦後伊東少佐と棚原高地守備の来
軍指揮官とを対談せしめたるに同大
隊は棚原高地を占領せるにあらざし
之同高地南斜面に取リつき同高地守
備の来軍と戦ふせること明らかと存
在り 来軍は昼間の戦線に拘泥す

ことなる夜間、後方は後方要線に後退する
を例とせしを以て同地附近の地形に
鑑み敵が夜間柵原高地の線に後退す
るはあり得べきこと、推察せらる
伊東大隊は其の向を利し、四列側面縦
隊にて前進し得たるものなり、敵を
牽破して柵原高地を占領したるに、あ
らざらば伊観四八高地夜襲の隙、歩兵
砲中隊の場合と略々同じ状況あり
伊東大隊と同方面に行動せる銃車隊

隊に就いても確實なる報告を
司令部としてはい同隊は五月四日前
高地東麓に進出したるも爾後の敵の
爲に棄てせられたるものと思考せり
戦後米軍の戦斗記録を讀むに我が隊
事跡は樹木の枝葉を擬装し天明突如
として敵軍の面前に現われ彼等を驚
愕せしめたるも恟もなぐ貧弱なる日
本軍勢を敗走せしめたりと記録し
あり

第二十回師團第一線各聯隊の攻勢頓挫の状況報告は甚だ悲觀的なりしも必ずしも過大報告とは云う能はず殊後殊務整理部に於いて各聯隊生存者数の作叢せし殊斗記録之を實証しあり伊東大隊が柵厚高地を占領したらしとの鼻疑不明(當時)の有利なる地の状況ありしも全般の状況は攻勢不成功と確認せり然れども攻勢中止に因り予は積極的の意見を具申せ

たりき 軍司令官は直接予に討し、
攻撃は費官の予想通り失敗した。攻
撃は中止する。軍の主力は消耗し
たが、殊存兵力を以て最後迄戦いを続
ける覚悟である。今後官軍を束縛し
たい。思ふ存分にやつて水と甲
之水たり。
攻勢は失敗の欲決算左の如し。
一、芥二十回師団の戦力が強んど三分
の一に落ちた。

二 船工兵ニテ隊が強人ど潰滅し
三 軍砲兵隊が弾薬の大部を射耗した
四 若し攻勢を取らなかつたならば
二 十回師団及び混成旅団は第六十
二 師団の掩護下に十分準備を整え
乙有利な防禦線が出来た筈であ
る
五 第六十二師団に對する敵の圧迫は
軍の攻勢に依つて緩和すること
が

出来なかつた

六、攻勢失敗の爲金軍の志氣が低下し

た

一、三層七行より一、四層三行迄に對する

新見

當時軍司令部は軍主陣地帶上に在り此

の位置は報下諸隊の志氣昂揚に利すると

ころ大なりき然れども反面軍の全陣地

が今にも崩壊するかの如き印象を上下に

与えたり 若し軍司令部が此の際津嘉山
 に後退しありたらんには首里を中心とす
 る大支撥災の崩存する限り一般の危機感
 を緩和し得たるべし
 一 一回更に行より九行迄に封する所見
 天久島の戦斗に關する回想録の一部
 第十方面軍より米軍側のラジカ・ニニ
 入を遂へて来た 天久島の戦斗に参加
 中の東海兵軍団の損害は甚大なる五百五十

名の中队が炊事場着生で繰り出して戦い
 遂に敵中隊は入名に存った
 1 他の中隊も略々同じく生存員二、三十
 名に過せぬ此の様存中隊は他に幾らで
 てもあるし等々吾々は狂喜した此の情
 報は敵と同じ悲慘な状態を殊斗中の美国
 陸隊に通報せられ隊長からは早速「
 叱咤激励せよ」の事結構長が時々は二人
 存二コトを預載した方が遙かに効果的
 であるとの電報があった

事實第十五聯隊は良く練つた
「真嘉比附近の我が歩兵が洞窟から躍心
出し折敷の姿勢で射撃しなから鞆車に
続行する敵歩兵と渡り合つていませと
言つた報告は厚く受領した海軍砲隊を
指揮して國場川南岸高地上から観測して
居た仁居少佐は安里北側五二高地附近
井上大隊の我が歩兵の敵と振りし砲
撃の集中心は洞窟陣地内に待機し其の止
んだ瞬間はらと洞窟から躍り出し哨

煙 湯 巻 へ 高 地 上 に 散 南 し 砲 臺 に 着 接 し て
近 迫 する 敵 歩 隊 と 格 闘 し 之 を 逐 退 する 一
を 激 費 し 甚 五 二 高 地 の 爭 奪 戦 は 高 地 の
頂 上 を 挟 ん 一 週 間 以上 に 亘 っ て 戦 休 水
敵 も 丸 坊 主 の 砂 山 に 成 っ た 同 高 地 を 占 拠
ガ ー ン 一 口 一 丁 の 高 地 と 名 づ け 其 の 死 斗 を 記
録 し て いる
一 二 七 頁 三 行 より 八 行 迄 に 對 する 所 見

本 退 却 攻 勢 に 就 いて は 夫 候 甚 の 他 の 條 件

の有利なるに依り相當程度の期待を寄せ
たるも既に主戦力を失える我が歩砲部隊
に之が成果を望むは無理なりき
一＝九頁一〇行より一行に對する所見
退却作戦の指導に就いて
退却作戦の指導上軍が特に注意せざるは
は退却する各岳團の行動の確に規整
し戦線に破綻を生ぜしめざることを並に
持久抵抗に力が入り過る新陣地に於て

る防禦準備が疎かにならざることの二
件なりき各兵団の抵抗すべき線、時
日並に使用兵力は軍の退却命令を以て
概要は統制せむも国場川以南の各抵抗
線全般に亘り退却の当初より遠く之を
決定するは不可能にして又通信連絡著
しく不良と存れる状態に於て日々命令
して其の行動を律する能はず依つて
臨時第六十二師団に配属しありし薬丸
冬張を津嘉山に疎置し軍情報所長とし

之左の如く各兵团特に第二十四師団を
置部隊之第六十二師団主力との連繫を
和に任ぜしめたり
一、退却掩護部隊として一、第二十四師
団に属せり独立歩兵第二十二大隊が
權威なき歩兵第六十四旅団命令に依
り過早に首尾を撤せんとし兩兵团の
間に攙著を生ずるや之を適切に處理
せり

二、津嘉山周辺に相連繫して持久陣地を

右領世の歩兵第六十四旅団及び歩兵
第三十二聯隊の両司令部を津嘉山の
同一場所に位置せしめ相互の協同運
撃を有利ならしめたり
三月六日三日歩兵第六十二師団が饒波川の線
に據る歩兵第二十二聯隊との連撃を
失して後退せんとするを看破し迅速
に之を報告し軍をして適時之を調整
せしめ得たり
右の外軍は軍主力が未だ喜屋武半島地

区に後退集結せざるに先ち敵が我が背
面に新上陸を企圖することになり就き警戒
を怠らざりて従つて新陣地の背面防
禦に就かずべき第六十二師団の持久抵抗
に過度の要求を爲さざりき
軍の退却作戦は予想以上に順調に進捗
し六月五日拂曉迄に全軍新陣地に集結
を了せり 鬼うに米軍の追撃が慎重を
極め知念山系を急進し来たれ一部
外は歩一歩前進の戦法を取り我も亦甚

の特性を知り悠々秩序を紊さず多数尚
生存しありし中級以上の指揮官が充ち
甚の部下を掌握して後退せしに依る等
らん
一三六頁一〇行より一三行迄に於する所見
海軍部隊の攻襲を受くるや軍は新陣地
に於いて最後と共に世人が爲る手段を
盡くして後退を命じたるも遂に之に依り
ざりき

(終り)